

市の考え方等

提出された意見等の概要

9番

米粉使用推進事業

米消費拡大推進は農業者にとっても重要な課題

米粉使用のパンが3割高くなる事については、JAの理解と協力が不可欠だとおもいます。具体的には地元供給という観点から運送費用分の価格減や全量2等米使用などである程度は安く供給できるはずと思います。

2等米といってもカメ被害の格落ちなら色選をかければ問題なしですし乳白米でもパンの品質に大きな影響があるとは思えません。

パンを作る過程でのコスト高については私は全くわかりませんが、事業者との話し合いでそちらの面でのコスト削減も可能ではないでしょうか。

そういった取り組みの中で、最終的に1割高ぐらいに抑えられれば社会的合意も得られるとおもいます。

米粉パンは、価格が高くなるようですが、私達農家は一緒に作ったコシヒカリの産米を減反政策のため限度の中で加工用米として30kg当り5,180円～6,780円の低価格で売渡しているのが現状であります。これを学校米パン給食用原料として地産地消ができるようになったら嬉しいです。米粉のうどんも是非お願いします。

意見等に対する市の考え方

コストの課題については、JAなど農業者団体とパン製造業者の理解と協力が不可欠です。課題も色々ありますが、試行を進める中で、対応策を検討していきたいと考えています。

他の市町村等では、加工用米より安価なくず米を利用している例もありますが、それでも通常のパンより価格が高くなっているようです。原料の米については、引き続き研究していきたいと考えています。

米粉うどんにつきましても、価格の面が課題となっているようですが、今後研究していきたいと考えています。

市の考え方等

提出された意見等の概要

10番

地産地消供給体制モデル事業

19年より農業後継者を中心にした小豆栽培の組織を立ち上げる話し合いを進めているところです。

学校給食にぜんざい等の小豆を使ったメニューがあれば19年産の小豆の供給をお約束できると思います。

つきましては、あずきの会(仮称)への助成をお願いします。

減反面積+遊休農地がたくさんあります。地域振興の中でPTAや老人会の理解を経て顔の見える地場産の農産物を子供達に食してもらいたいと念願して止みません。

意見等に対する市の考え方

本事業で育成支援しようとする組織につきましては、単一品目を生産供給する組織ではなく、その地区で栽培された農産物を恒常的に供給できる体制を構築する組織です。

なお、小豆につきましては、本市では初めての取組ですので、詳細な事業計画をお示しいただいた段階で支援策につきましては、検討いたします。

本事業により、地区単位での生産者の顔の見える地産地消を進めてまいります。